

2 各種テスト等における変化

2-1 CRT(標準学力検査)結果

① CRT(標準学力検査)の概要

実証校における児童生徒の学力の状況を把握するとともに、各学校において調査結果を踏まえた指導の改善に生かすため、市販の学力テスト「CRT(標準学力検査)」⁶(以下、「CRT」という)を実施した。

i) 調査時点

平成23～24年の年度末及び25年11月

ii) 調査対象

- ・学びのイノベーション事業実証校17校(小学校10校、中学校7校⁷)の児童生徒。
- ・小学校:23年度 第3・4学年、24年度 第4・5学年、25年度 第5・6学年
- ・中学校:23年度 第1学年、24年度 第2学年、25年度 第3学年
- ・調査対象者数は以下のとおり。

学校種	学年	平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校	第3学年	492	—	—
	第4学年	559	491	—
	第5学年	—	558	482
	第6学年	—	—	562
中学校	第1学年	689	—	—
	第2学年	—	680	—
	第3学年	—	—	677

iii) 調査方法

CRTを用いての学力検査

iv) 調査項目

- ・小学校:国語、算数
- ・中学校:国語、数学、英語

⁶ 株式会社図書文化社が実施する目標基準準拠検査。

⁷ 実証校のうち1校については平成23年度中にCRTを実施できなかったため、ここでは集計に含めていない。

1

児童生徒の意識の変化

2

各種テスト等における変化

3

教員の意識・指導力の変化

4

ICTスキルの変化

5

研究成果報告書における効果や課題

② 集計結果概要

以下、小学校・中学校の実証校における得点率と評定の出現率について集計を行った。なお、平成23年度末及び24年度末の調査結果については、実証校の状況と全国の状況を比較した。平成25年度においては原則として11月に、各学校の履修状況に応じて、各学校で問題を選択して実施した。11月時点では、全国的に実施されていないことから、実証校の数値を参考値として示す。

以下、小学校・中学校の実証校における得点率と評定の出現率について集計を行った。

得点率：正答数／満点数×100

評定出現率：得点率等を基に評定（小学校は3段階、中学校は5段階）を付与しており、評定の各段階に属する児童生徒の割合を表す

i) 小学校

実証校の小学校10校について、ICT環境を導入して約1年半経過した時期（平成23年度末）と、その1年後（24年度末）を集計した。

ア 得点率

実証校の平均得点率を全国の平均得点率と比較すると、

- ▶平成23年度末に全国平均を下回っていた第3学年の国語については、24年度末の第4学年の時点では全国平均と同水準以上となっている。
- ▶平成23年度末に全国平均と同水準であった第4学年の国語・算数については、24年度末の第5学年の時点でも全国平均と同水準である。

1
児童生徒の
意識の変化

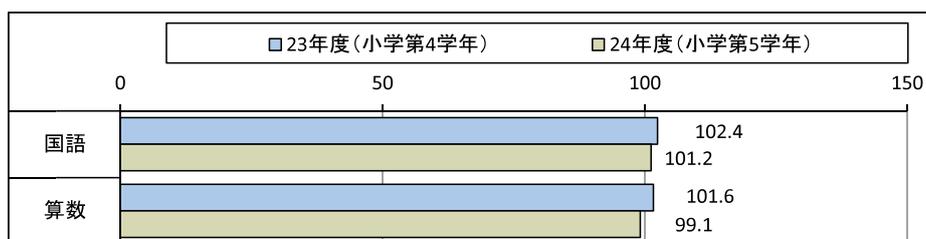
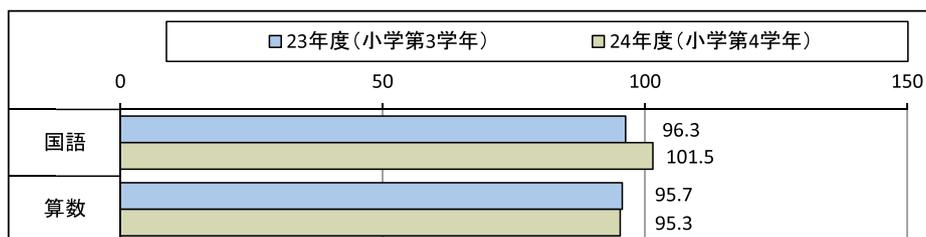
2
各種テスト等に
おける変化

3
教員の
意識・指導力の変化

4
ICTスキルの変化

5
研究成果報告書に
おける効果や課題

		第3学年(23年度)	第4学年(24年度)	第5学年(25年度) ※参考値
国語	実証校平均得点率a(%)	59.8	66.4	59.3
	全国平均得点率b(%)	62.1	65.4	—
	全国比a/b(%)	96.3	101.5	—
算数	実証校平均得点率c(%)	73.9	66.2	65.0
	全国平均得点率d(%)	77.2	69.5	—
	全国比c/d(%)	95.7	95.3	—
		第4学年(23年度)	第5学年(24年度)	第6学年(25年度) ※参考値
国語	実証校平均得点率a(%)	67.0	61.4	69.3
	全国平均得点率b(%)	65.4	60.7	—
	全国比a/b(%)	102.4	101.2	—
算数	実証校平均得点率c(%)	69.4	66.4	69.2
	全国平均得点率d(%)	68.3	67.0	—
	全国比c/d(%)	101.6	99.1	—



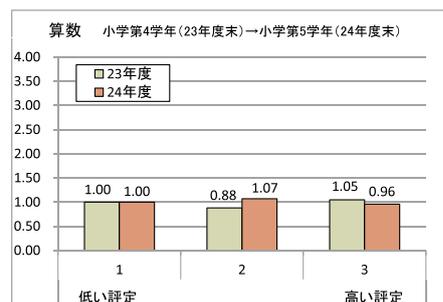
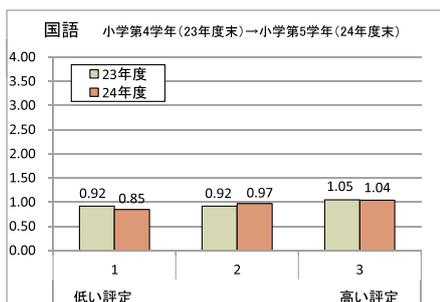
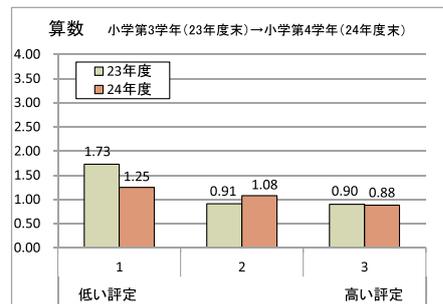
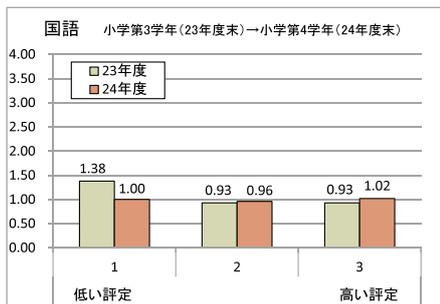
イ 評定出現率

小学校のCRTでは児童の得点をもとに3段階の評定を付与している。各段階に属する児童の割合(出現率)について、実証校と全国の状況は以下のとおりである。

▶実証校において、最も低い評定(評定1)であった児童の出現率の全国比を経年で比較すると、概ね減少している。

	評定	第3学年(23年度)			第4学年(24年度)			第5学年(25年度) ※参考値		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3
国語	実証校評定出現率a(%)	22.0	26.0	52.0	12.0	25.0	63.0	14.0	39.0	47.0
	全国評定出現率b(%)	16.0	28.0	56.0	12.0	26.0	62.0	—	—	—
	評定出現率全国比a/b	1.38	0.93	0.93	1.00	0.96	1.02	—	—	—
算数	実証校評定出現率c(%)	19.0	20.0	61.0	20.0	26.0	53.0	25.0	29.0	46.0
	全国評定出現率d(%)	11.0	22.0	68.0	16.0	24.0	60.0	—	—	—
	評定出現率全国比c/d	1.73	0.91	0.90	1.25	1.08	0.88	—	—	—

	評定	第4学年(23年度)			第5学年(24年度)			第6学年(25年度) ※参考値		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3
国語	実証校評定出現率a(%)	11.0	24.0	65.0	11.0	35.0	53.0	10.0	29.0	61.0
	全国評定出現率b(%)	12.0	26.0	62.0	13.0	36.0	51.0	—	—	—
	評定出現率全国比a/b	0.92	0.92	1.05	0.85	0.97	1.04	—	—	—
算数	実証校評定出現率c(%)	17.0	23.0	60.0	22.0	30.0	48.0	13.0	34.0	53.0
	全国評定出現率d(%)	17.0	26.0	57.0	22.0	28.0	50.0	—	—	—
	評定出現率全国比c/d	1.00	0.88	1.05	1.00	1.07	0.96	—	—	—



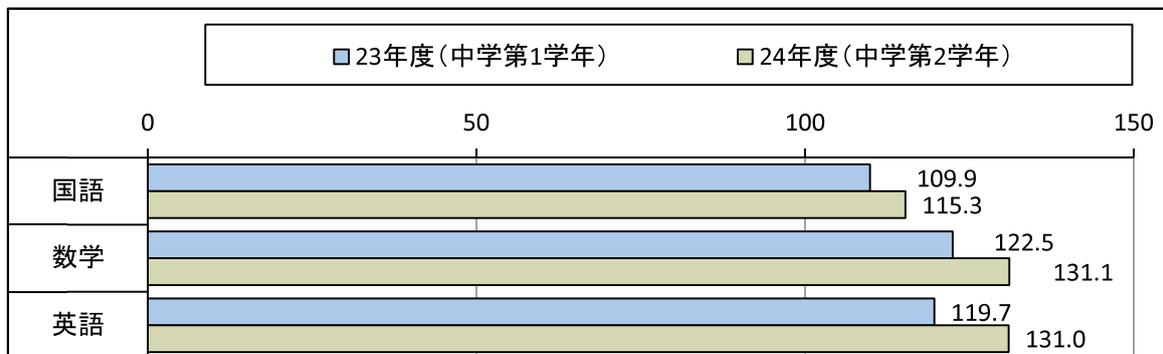
ii) 中学校

実証校の中学校7校について、ICT環境導入直後(平成23年度末)と、その1年後(24年度末)の調査結果を基に、得点率と評定出現率を全国平均と比較し、経年変化を整理した。

ア 得点率

▶実証校の得点率の全国比を経年で比較すると、23年度末時点で全国平均を上回っていた国語、数学、英語が、24年度末ではさらに増加している結果となっている。

	評定	第1学年(23年度)	第2学年(24年度)	第3学年(25年度) ※参考値
国語	実証校平均得点率a(%)	75.4	72.1	69.3
	全国平均得点率b(%)	68.6	62.5	—
	全国比a/b(%)	109.9	115.3	—
数学	実証校平均得点率c(%)	71.8	70.3	68.6
	全国平均得点率d(%)	58.6	53.6	—
	全国比c/d(%)	122.5	131.1	—
英語	実証校平均得点率e(%)	80.5	74.2	70.3
	全国平均得点率f(%)	67.3	56.6	—
	全国比e/f(%)	119.7	131.0	—



イ 評定別出現率

中学校のCRTでは生徒の得点率をもとに5段階の評定を付与している。中学校実証校については、評定1、2の出現率がそれぞれ数%程度のものもあり低い値であることから、数%の差で全国比の数値が大きく変動するため、今回の集計に当たっては評定1～3をまとめて集計した。

なお、中学校については、各評定の出現状況が、最も高い評定(評定5)に集中している学校(集団A)と比較的出現状況が均一な学校(集団B)に分かれるため、それぞれの集団に分けて集計した。

1

児童生徒の意識の変化

▶ 集団Aについては、平成23年度末の第1学年は国語、数学、英語ともそのほとんどが最も高い評定（評定5）に属しており、24年度末の第2学年の時点では、さらに増加している。集団Bについては、平成24年度末の第2学年は、第1学年のときと比べて、国語の評定1～3の出現率が、減少している。

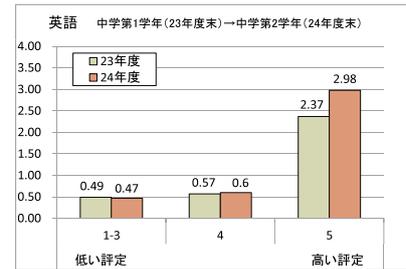
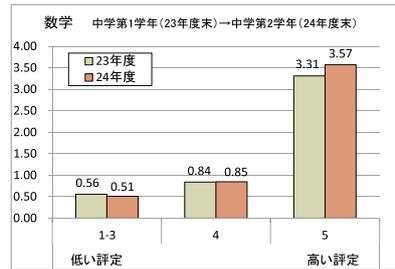
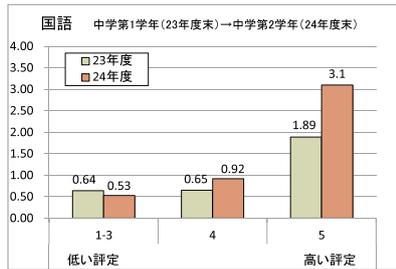
2

各種テスト等における変化

	評定	第1学年（23年度）			第2学年（24年度）			第3学年（25年度） ※参考値		
		1～3	4	5	1～3	4	5	1～3	4	5
国語	実証校評定出現率a(%)	20.0	25.4	54.7	28.2	31.3	40.3	35.2	35.0	29.9
	全国評定出現率b(%)	31.0	39.0	29.0	53.0	34.0	13.0	—	—	—
	評定出現率全国比a/b	0.64	0.65	1.89	0.53	0.92	3.10	—	—	—
数学	実証校評定出現率c(%)	34.5	19.3	46.4	36.0	14.4	49.9	30.3	16.7	53.3
	全国評定出現率d(%)	62.0	23.0	14.0	70.0	17.0	14.0	—	—	—
	評定出現率全国比c/d	0.56	0.84	3.31	0.51	0.85	3.57	—	—	—
英語	実証校評定出現率e(%)	23.4	14.9	61.7	27.5	13.2	59.6	32.7	14.8	52.7
	全国評定出現率f(%)	48.0	26.0	26.0	59.0	22.0	20.0	—	—	—
	評定出現率全国比e/f	0.49	0.57	2.37	0.47	0.60	2.98	—	—	—

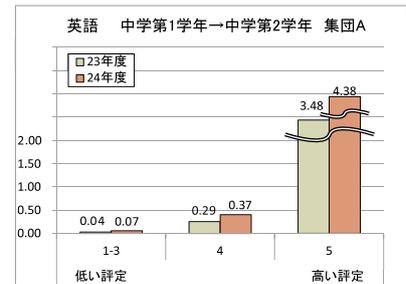
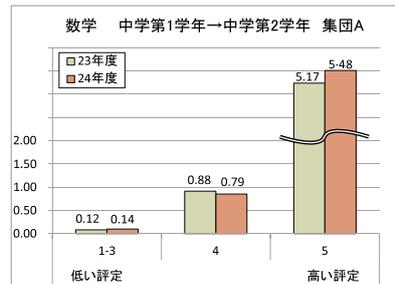
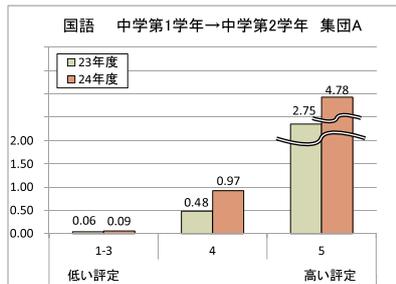
3

教員の意識・指導力の変化



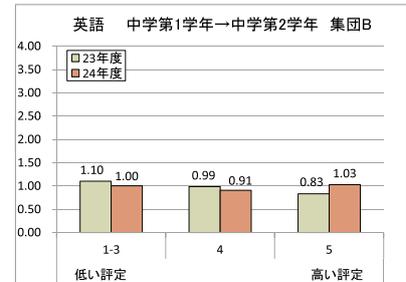
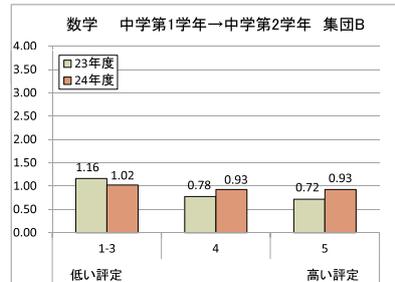
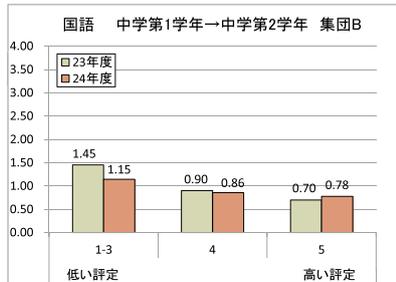
4

ICTスキルの変化



5

研究成果報告書における効果や課題



2-2 全国学力・学習状況調査

実証校における児童生徒の学力の状況や、児童生徒の意識、学校における指導方法等の状況を把握するため、文部科学省において実施している平成25年度⁸全国学力・学習状況調査のデータを使用した⁹。

① 「教科に関する調査」の概要

i) 調査時点

平成25年4月

ii) 調査対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の原則として全児童生徒
- ・学びのイノベーション事業においては、学びのイノベーション事業実証校18校(小学校10校、中学校8校)の児童生徒

学校種	対象校	学校数	児童生徒数
小学校	全国	20,590	1,121,164
	実証校	10	544
中学校	全国	10,184	1,070,833
	実証校	8	721

iii) 調査方法(使用データ)

全国学力・学習状況調査のうち「教科に関する調査」

iv) 調査項目

- ・主として「知識」に関する問題(A問題)
- ・主として「活用」に関する問題(B問題)

(対象教科)

- ・小学校:国語、算数
- ・中学校:国語、数学

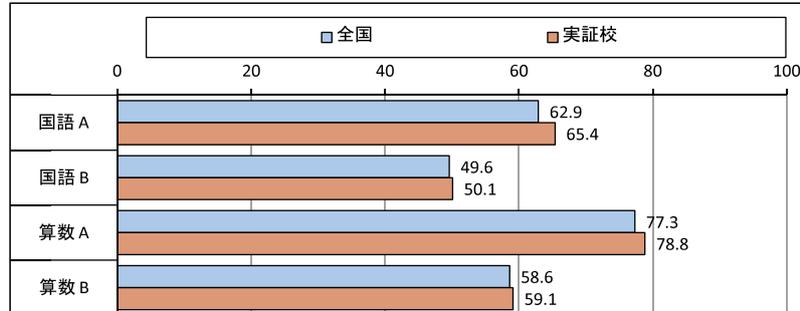
⁸ 22・24年度は抽出調査、23年度は東日本大震災の影響により未実施。

⁹ 当該調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意する必要がある。

②-①の集計結果概要

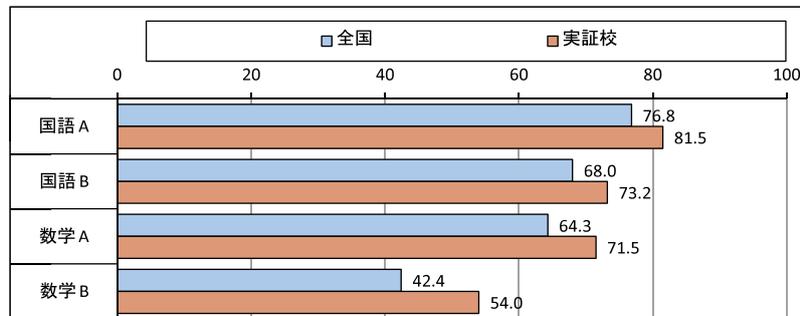
平成25年度実施の全国学力・学習状況調査(小学校第6学年、中学校第3学年)について、実証校と全国の状況は以下のとおりである。

i) 小学校得点率



(A問題:主として知識に関する問題、B問題:主として活用に関する問題)

ii) 中学校得点率



(A問題:主として知識に関する問題、B問題:主として活用に関する問題)

③「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」のうち児童生徒に対する調査の概要

i) 調査時点

平成25年4月

ii) 調査対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の原則として全児童生徒
- ・学びのイノベーション事業においては、学びのイノベーション事業実証校18校(小学校10校、中学校8校)の児童生徒

学校種	対象校	学校数	児童生徒数
小学校	全国	20,590	1,121,164
	実証校	10	544
中学校	全国	10,184	1,070,833
	実証校	8	721

iii) 調査方法(使用データ)

「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」のうち児童生徒に対する調査(以下、「児童生徒質問紙」とする)

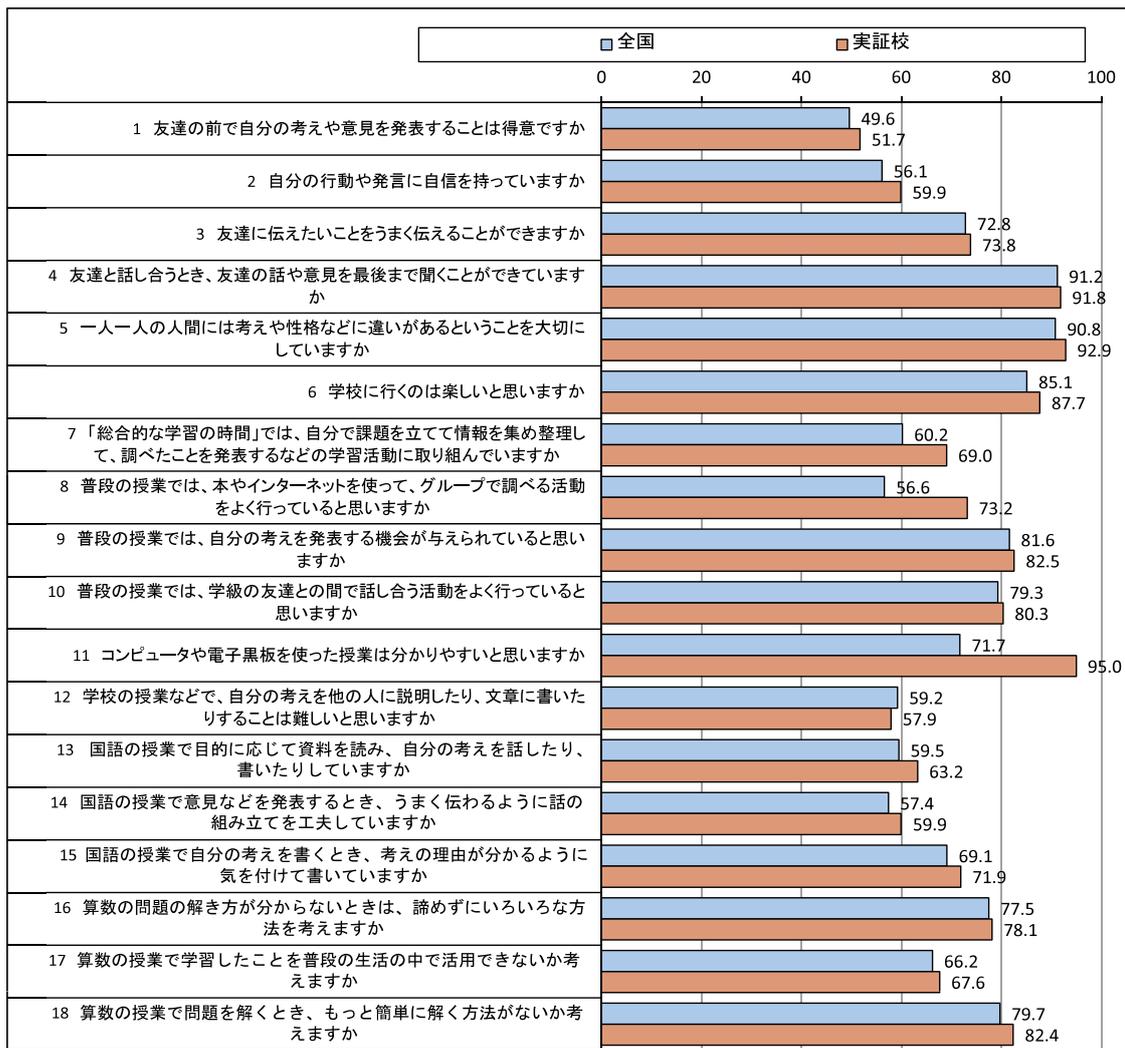
iv) 調査項目

児童生徒質問紙における、ICTに関連する項目、言語活動や協働学習等に関連する項目を使用

④ ③の集計結果概要

i) 小学校実証校における児童の意識

- ▶ 小学校は、ICTに関連する項目、言語活動や協働学習等に関連する項目については、全国より概ね上回っている。
- ▶ 特に「本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている」、「コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすい」と回答した者の割合が高い。「コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすい」については、実証校の中でも最も高い95%となっている。

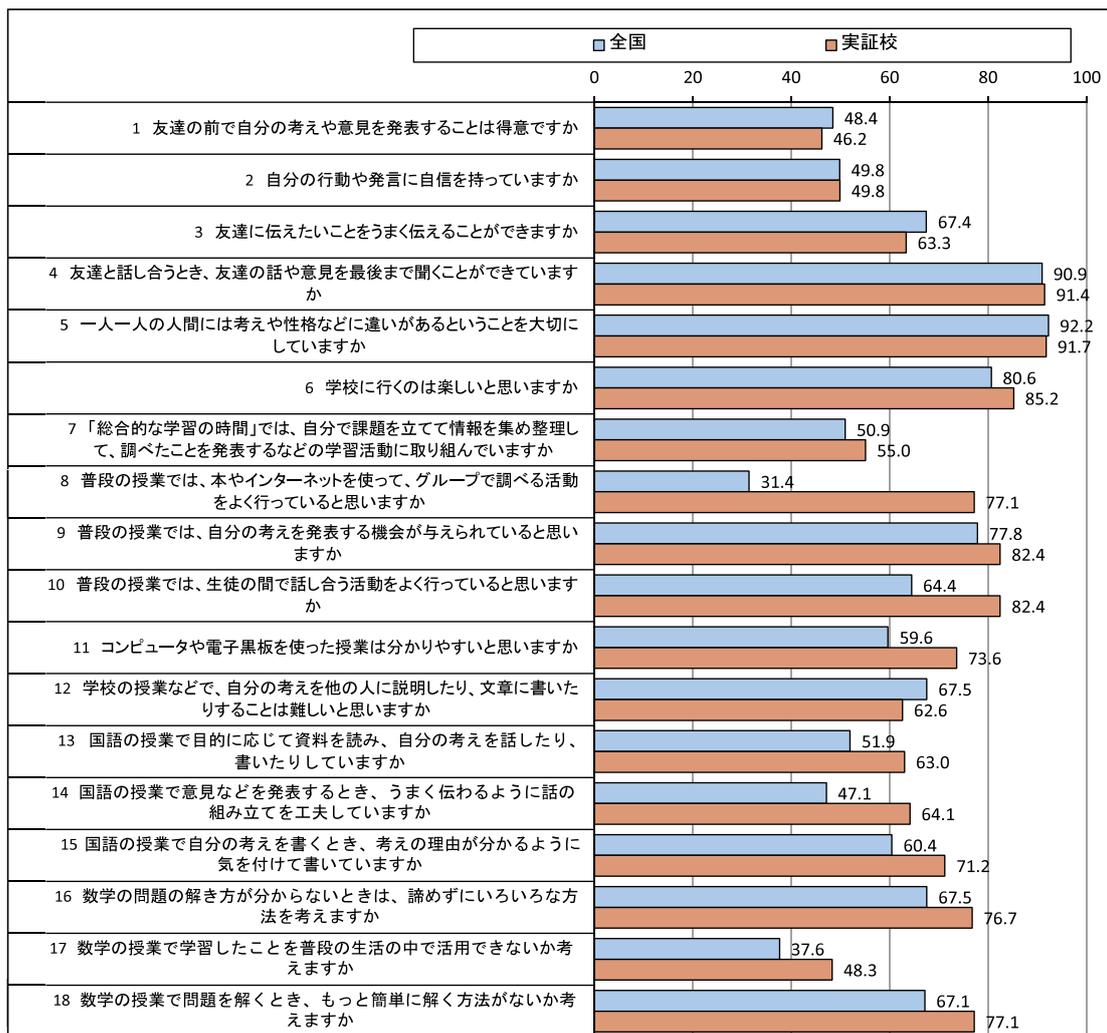


※「あてはまる」及び「どちらかといえば」の回答率

ii) 中学校実証校における生徒の意識

▶ 中学校は、ICTに関連する項目、言語活動や協働学習等に関連する項目については、一部の項目を除いて、概ね全国を上回っている。

▶ 特に「本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている」、「生徒の間で話し合う活動をよく行っている」、「コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすい」と回答した者の割合が、全国よりも高い。「本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている」については、全国の2倍以上の割合となっている。



※「あてはまる」及び「どちらかといえば」の回答率

⑤ 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」のうち学校に対する調査(参考)

i) 調査時点

平成25年4月

ii) 調査対象

③調査の学校数に同じ

学校種	対象校	学校数
小学校	全国	20,590
	実証校	10
中学校	全国	10,184
	実証校	8

iii) 調査方法

「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」のうち学校に対する調査(以下、「学校質問紙」とする)

iv) 調査項目

学校質問紙における、指導内容等に係るICTに関連する項目、言語活動や協働学習等に関連する項目を使用。

なお、当該調査の実証校のサンプル数は、小学校10校、中学校8校と少なく、1校の回答内容により、実証校全体の数値が大きく変動することから、参考値として示すものである。

1

児童生徒の
意識の変化

2

各種テスト等
における変化

3

教員の
意識・指導力の変化

4

ICTスキルの
変化

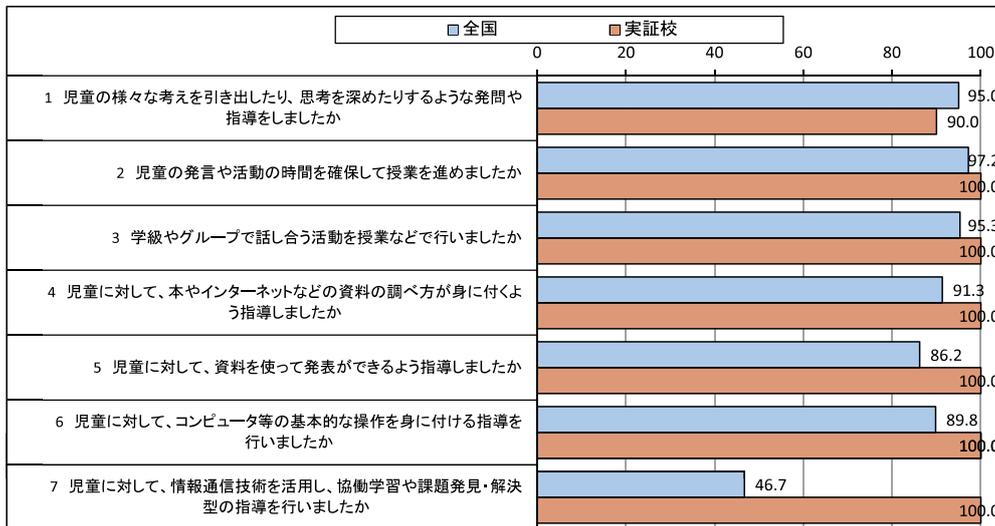
5

研究成果報告書に
おける効果や課題

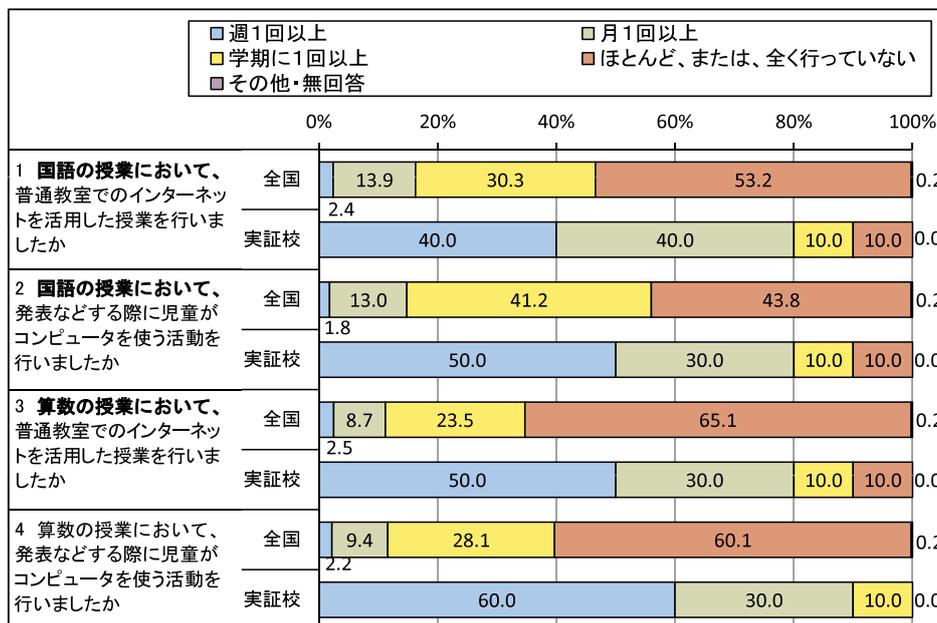
⑥-⑤の集計結果概要

▶実証校においては、特に、ICTの活用を通じた協働学習や課題発見型の指導などが全国よりも積極的に行われている傾向がみられる。

ア 小学校



※「よく行った」及び「どちらかといえば、行った」の回答率



1 児童生徒の意識の変化

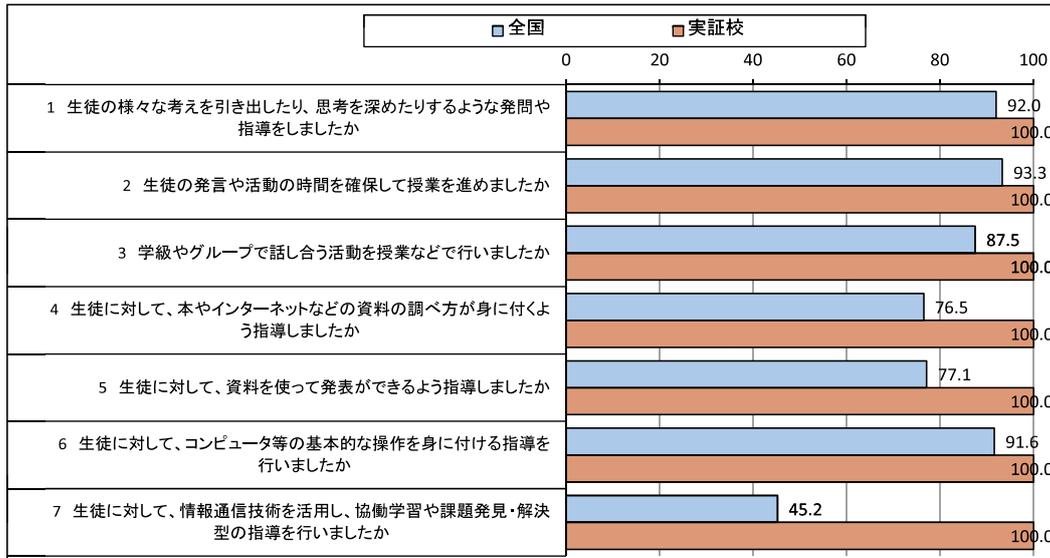
2 各種テスト等における変化

3 教員の意識・指導力の変化

4 ICTスキルの変化

5 研究成果報告書における効果や課題

イ 中学校



※「よく行った」及び「どちらかといえば、行った」の回答率

